研修主題

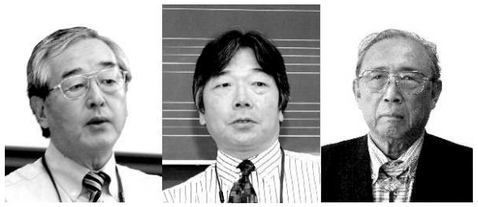
確かな学力をささえる 学びの基盤づくり

～学習規律、家庭学習、教師の力量、ICT活用の充実を通して～

日時　8月4日（木）・5日（金）　9:15～16:30

会場　東京都　港区立三田中学校

参加費　2日参加　10,000円（会員：8,000円）
1日参加　7,000円（会員：6,000円）



吉崎静夫先生　村川雅弘先生　水越敏行先生

小・中学校コース

8月4日（木）

基調講演

確かな学力をささえる学びの基盤づくり

日本女子大学教授　吉崎静夫

講演

学力向上に資する 校内研修の企画・運営

大阪教育大学教授　木原俊行

事例発表と教育機器体験

ワークショップ

以下から選択　（詳しい内容は右ページ参照）

A：段取り力強化プログラム
B：実践・学校危機管理
C：初めての教員でも行える 保護者向け携帯電話セミナーの実施（小）
D：教室の気になる児童への理解と対応（小）
E：学級担任が指導する、作文の書かせ方（中）
F：電子黒板を活かす授業づくり

特別講演

学力日本一の 秋田県と福井県から学ぶこと

対談：大阪大学名誉教授　水越敏行
日本女子大学教授　吉崎静夫

8月5日（金）

事例発表と解説

秋田県と福井県　学力日本一の秘密を探る

小・・・秋田実践報告　総括：澤本和子（日本女子大学教授）

中・・・福井実践報告　総括：木原俊行（大阪教育大学教授）

講演

教育の情報化に関する 政策の動向および現実的課題

玉川大学教授　堀田龍也

事例発表と教育機器体験

ワークショップ

以下から選択　（詳しい内容は右ページ参照）

G：思考スキルの育成をめざす授業づくり
H：児童の情報活用能力を育成する授業づくりの実際
I：新学習指導要領における 情報モラル教育に向けて（中）
J：学級担任が指導する、作文の書かせ方（中）
K：デジタル教科書体験
L：若手を伸ばす環境づくりのスキル

講演

活用力・探究力育成の意義と そのためのカリキュラム開発・授業づくり

文部科学省教科調査官　田村　学
鳴門教育大学教職大学院教授　村川雅弘

＊各講師の肩書きは、2011年4月現在のものです。　＊プログラムは変更になる場合があります。

特別コース

8月4日（木）　幼稚園教員向け実践講座
（詳細はフォーラム事務局にお問い合わせください）

8月5日（金）　カリキュラムマネジメント講座
（詳しい内容は裏面参照）

黒上晴夫先生　木原俊行先生　堀田龍也先生

ワークショップの内容

（参加したい講座を第2希望まで選択してください）
＊各講師の肩書きは2011年4月現在のものです。

8月4日（木）

小学校 中学校　A：段取り力強化プログラム
～行事運営からクラスづくりまで必要な汎用スキル～

吉山勇樹　（株）ハイブリッドコンサルティング代表取締役CEO

教師の日常は非常に多忙です。しかし、「段取り八分」という考え方は、学級づくりや体育祭、遠足、学習発表会、入学・卒業式など様々な行事においても当てはまります。今回のワークショップでは、ある行事を企画・実施する想定で、グループワーク形式で段取りの技術を体感し、2学期からの行事にすぐに役立つノウハウを学びます。

小学校 中学校　B：実践・学校危機管理
～信頼される教師・学校であるために～

田村知子　中村学園大学講師

学校で危機が起こった場合には何をしなければならないのか、そもそも危機的状況を発生させないために何をしておくべきかを考えて危機管理マニュアルをグループ毎に作成します。その上で、その危機的状況について保護者が苦情を訴えに来校したという想定で、保護者役と教師役に分かれてロールプレイングを実施します。その過程で、保護者の気持ちへの理解や、教師が陥りやすい思考様式への気づきが促されます。

小学校　C：初めての教員でも行える 保護者向け携帯電話セミナーの実施

榎本竜二　東京女子体育大学准教授

小学生に対しても猛スピードで広がる携帯電話。十分な話し合いもないまま保護者は子どもに買い与えてしまいます。安全面・健康面などあらゆる面で、子ども達は危険にさらされています。新学習指導要領にも情報モラル教育が明記された今、教員の役割は重大です。そこで、改訂されたWeb教材「ネット社会の歩き方」を用いて、情報モラル教育初心者の教員でも行える保護者向けセミナーの実施・運営について学んでいきます。

小学校　D：教室の気になる児童への理解と対応

上原 文　社会福祉研究所副所長

通常学級の中の気になる児童への対応が学級運営においても非常に重要になってきています。この講習では、そうした子どもたちをより良く理解し適切に対応していくために知っておくべきこと、意識すべきことなどについて学んでいきます。（この講習は、講義形式中心となります）

中学校　E：学級担任が指導する、作文の書かせ方
～行事作文を中心に～

池田 修　京都橘大学准教授

「はい、では昨日の運動会のことを作文に書いてください」。行事後に書かせる作文は、担任が指導することがほとんどです。国語が専門の教師であれば、指導はできるでしょう。しかし、国語が専門でない担任も指導はしなければなりません。これはなかなか難しい。さらに、新学習指導要領では国語科以外での「言語活動の充実」も求めています。本講座では、主に国語を専門としない教員を対象として、行事作文の書かせ方を学びます。

小学校 中学校　F：電子黒板を活かす授業づくり

中橋 雄　武蔵大学教授

学校に導入された電子黒板、有効活用できていますか？この講座では、①実践事例の紹介、②電子黒板機能の体験、③授業づくりワークショップを通じて、電子黒板を有効活用できる授業場面を考えていきます。単に機器が導入されただけで授業がよくなるわけではありません。どんな場面で、どのように活用すると有効なのか、グループの知を結集させて考えていきましょう。

8月5日（金）

小学校 中学校　G：思考スキルの育成をめざす授業づくり

黒上晴夫　関西大学教授

新学習指導要領で重視されている習得した知識・技能を活用する学習活動や課題を解決する探究活動などにおいては、評価基準が曖昧になりやすく、結果として指導・助言にも不明確さが生じてしまいがちです。そうした内容における子どもたちの学習到達状況をきちんと評価するための評価基準をグループで話しあいながら作り上げていきます。

小学校　H：児童の情報活用能力を育成する 授業づくりの実際

堀田龍也　玉川大学教授

2006年に開発・刊行され、たくさんの学校で活用されてきた小学生向けの情報教育のテキストは、2010年に新学習指導要領に対応してリニューアルされました。各教科の学習内容と情報活用能力の育成を同時に行う単元および学習活動が設定されています。
このテキストを活用した情報活用能力の育成のための授業づくりについて考えます。

中学校　I：新学習指導要領における 情報モラル教育に向けて

榎本竜二　東京女子体育大学准教授

ネット犯罪の対象は徐々に低年齢化し、被害者の中心は中学生と言ってもよいでしょう。携帯電話やゲーム機からのネット利用は、保護者の見守りや学校の指導が入りにくい状態を生み出しています。学習指導要領にも各教科領域において指導することが求められました。そこで、ネット利用問題の最新情報を織り交ぜながら、学校で生徒や保護者対象に行う「ネット社会の歩き方」セミナーの実施・運営について学んでいきます。

中学校　J：学級担任が指導する、作文の書かせ方
～行事作文を中心に～

池田 修　京都橘大学准教授

「はい、では昨日の運動会のことを作文に書いてください」。行事後に書かせる作文は、担任が指導することがほとんどです。国語が専門の教師であれば、指導はできるでしょう。しかし、国語が専門でない担任も指導はしなければなりません。これはなかなか難しい。さらに、新学習指導要領では国語科以外での「言語活動の充実」も求めています。本講座では、主に国語を専門としない教員を対象として、行事作文の書かせ方を学びます。

小学校 中学校　K：デジタル教科書体験

中橋 雄　武蔵大学教授

話題となっているデジタル教科書の実物に触れる研修です。実際の使用環境を想定し、電子黒板やタブレットPC上でのデジタル教科書の操作を体験します。そうした体験に、先進事例におけるデジタル教科書活用の効果や課題、各デジタル教科書の特徴とそのねらいなどについての解説を交えて、デジタル教科書をよりよく知っていただきます。

小学校 中学校　L：若手を伸ばす環境づくりのスキル

諸葛正弥　諸葛正弥教育総合クリニック代表

団塊の世代が退職し、世代交代の中で若手の育成は非常に重要になっています。しかし、若手とのコミュニケーションギャップなどを感じられている方も多いかと思います。それを解消するには、若手も主体的に研鑽をしようとする意欲を育てる環境を、学校全体で演出する必要があります。その環境づくりのコミュニケーション技術や関わり方のスキルなど、教員研修での実例を踏まえながら学習していきます。

IMETSフォーラム2011 特別コース　8月5日（金）

カリキュラムマネジメント講　座

さまざまな課題がわかり、解決の道筋が見える!!

ワークショップ型研修で多くのミドルリーダーを育成してきた村川雅弘先生とカリキュラムマネジメントの第一人者　田村知子先生のコラボレーションによる、わかりやすく実践的な講習です。

受講者の感想

- **校内の先生方の多忙感解決のために何をすべきかが見えてきました。**
- **自分のクラスの課題がわかり、課題解決の道筋が見えました。**
- **特色ある学校づくりのヒントと組織的にカリキュラムをつくる方法がわかりました。**

・理論と実践発表、ワークショップのバランスがよい。実際の分析により、ポイントが確認できた。
・大学の専門的な研究者と現場の実践者の両方の話をうかがえ、それを関連づけられてよかった。
・カリキュラムマネジメントの実際が学べ、今後の自らの勤務上の行動を決める一助となる。
・期待していた以上の内容で、自校でもできるところから取り入れていきたいと思った。

■参加費　（お弁当代含む）
一般　7,000円
学生　4,000円

■ カリキュラムマメジメントとは……

総合的な学習やキャリア教育、言語活動の充実、食育、小学校外国語活動などの現代的な課題だけでなく、教育課程全体において学校独自のカリキュラムづくりが求められています。各学校は、子どもや地域の実態を踏まえて、自校の教育目標を設定し、子どもたちを成長させる最適なカリキュラムを開発し、PDCAサイクルでカリキュラムを動かし改善を続けていく必要があります。
カリキュラムマネジメントは、そのための理念や方法論を提示するものです。

研修プログラム

講義・解説
さまざまな教育課題に対応するためのカリキュラムマネジメント
鳴門教育大学大学院教授　村川雅弘
中村学園大学 講師　田村知子

事例発表1
小学校事例発表
東京都　東村山市立大岱小学校

事例発表2
中学校事例発表
東京近郊の公立中学校の事例発表を予定

ワークショップ
事例発表校の分析を通してカリキュラムマネジメントを理解する

パネルディスカッション
学校力・教師力を高めるための方策を探る
コーディネーター：　村川雅弘
パネリスト：　田村知子
事例発表の方々

総括講演
なぜ今、活用・探究する力が注目されているのか
文部科学省教科調査官　田村　学
総括　村川雅弘

登壇者・実践事例発表校から

村川雅弘（鳴門教育大学教職大学院教授）
この講座のウリは、学校現場と直接にかかわり、多方面で調査をしてきた講師による実践的なデータが豊富に散りばめられた分かりやすい講話と、研修の流れ全体の工夫にあります。カリキュラムマネジメントの先進校の事例を、講話で学んだモデルを使って、それに位置付けつつ話を聞きます。各事例の具体的な手だての一つ一つが意味を持って、関連づけて理解することができます。そして、具体的な事例を通して考えることにより、カリキュラムマネジメントの考え方やモデルがさらに理解できるのです。最後に、それまでに学んだ知識を活用して、自校の取り組みを分析することで、「何が特色か」「どこをどう解決するのか」が見えてきます。

田村知子（中村学園大学講師）
本講座の主目的は、今、学校と教師に強く求められているカリキュラムマネジメントの考え方と方法を学ぶことです。しかし、それ以外にも、子どもの学力向上の具体的な方策や小中一貫教育の進め方について、全国でも特に先進的な学校から、学ぶことができます。また、校内研修を活発化させ効果を高めるワークショップ型研修についても、講習を通して実践的に学ぶことができます。具体的な実践事例と理論を融合させて、授業づくり、カリキュラムづくり、学校づくりについて、参加者と講師、事例発表者が協同的に考えていきます。全国からの参加者とのネットワークづくりも期待できます。講義と参加型の両方で構成された講習で、楽しく、知識を身につけましょう。

小学校事例発表内容
かつて、児童の問題行動や低学力に悩まされていた同校は、会議よりも児童の指導を優先する取り組みにより学校改革を進めて大きな成果を上げています。この取り組みの中で行われた教育課程のカリキュラムマネジメントについてご紹介します。

中学校事例発表内容
小中連携の強化のために中学校内の先生方だけでなく、連携する小学校の先生方も巻き込んで小中一貫のカリキュラムづくりに取り組んだ中学校の事例についてご紹介します。

IMETSフォーラム2011　参加申し込み書

■参加される方のお名前・ご連絡先等

ふりがな お名前		（会員参加費で申し込まれる方のみ） 会員番号
郵便番号	ご住所	電話番号
ご勤務先	メールアドレス	

＊本申込み書にご記入いただいた個人情報は、IMETSフォーラム実施に関わる目的にのみ使用いたします。財団外への情報提供はいたしません。

■参加区分と参加費　（希望される区分の□にレ印を入れてください）

小・中学校2日間コース（木・金）	□一般（10,000円）	□会員（8,000円）	□学生（3,000円）
小・中学校4日（木）のみ	□一般（ 7,000円）	□会員（6,000円）	□学生（3,000円）
小・中学校5日（金）のみ	□一般（ 7,000円）	□会員（6,000円）	□学生（3,000円）
カリキュラムマネジメント講座（金）のみ	□一般（ 7,000円）		□学生（4,000円）

＊小・中学校コース（4日）とカリキュラムマネジメント講座の両方の受講を希望される場合は、フォーラム事務局にお問い合わせください。

■お弁当の希望（小・中学校コース）　（希望される日の□にレ印を入れてください）

□4日（木）分を注文（700円）　□5日（金）分を注文（700円）

カリキュラムマネジメント講座参加の方のお弁当代は参加費に含まれています。

■ワークショップの選択

	第1希望	第2希望
4日（木）		
5日（金）		

プログラムからご希望の講座を第2希望まで記号でご記入ください。

FAX　03-3756-0307

インターネットからのお申し込みは右のURLへ　**http://www.sainou.or.jp/forum2011/**

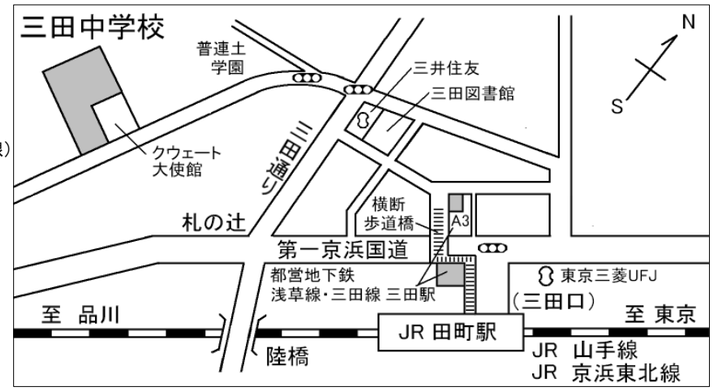
IMETSフォーラム2011　第38回教育工学研修中央セミナー

＊IMETS：Improvement of Media Education and Teaching Studies

■日時：8月4日（木）・5日（金）
午前9時15分～午後4時30分

■会場：東京都　港区立三田中学校
（東京都港区三田4-13-13）

アクセス：最寄り駅
「田町駅」（JR山手線・京浜東北線）
「三田駅」（都営浅草線・三田線）



■お申し込み方法
参加申し込み書にご記入の上、FAXしてください。
インターネットからも申し込めます。
http://www.sainou.or.jp/forum2011/
お申し込み者には、参加費の振込先、地図などをお送りいたします。

■お問い合わせ先

才能開発教育研究財団　教育工学研究協議会
フォーラム事務局
〒146-0083　東京都大田区千鳥3-25-5　千鳥町ビル
電話：03-5741-1311　FAX：03-3756-0307
E-mail：forum@sainou.or.jp

主催：公益財団法人 才能開発教育研究財団
教育工学研究協議会

共催：（社）日本教育工学振興会　（JAPET）

後援（申請中）：文部科学省、全国教育研究所連盟、
全国教育研究所連盟、東京都教育委員会、
港区教育委員会、民間教育研究所連盟、
日本教育工学会、日本教育工学協会、
（財）コンピュータ教育開発センター、
NPO法人日本教育再興連盟

協力（予　定）：学研グループ各社、泉株式会社、
エプソン販売株式会社、
日本アビオニクス株式会社

2011年4月現在